

佐伯家 回顧録として

東日本大震災でお亡くなりになられた方々にお悔やみ申し上げます。

また、被災された方々に謹んでお見舞い申し上げます。

私ごとで大変失礼とは存じますが私は東京生れの東京育ちのおばあちゃんです。今は京都に住いする（当年86才）の高齢者です。

太平洋戦争をを顧みて、半世紀を過ぎた65年昔の事です。

当時は戦時体制の中で住まいは旧都内日本橋区両国町隅田川辺（昭和20年3月10日）の東京大空襲で住まいは焼夷弾攻撃で火の海、熱風の中を命からがら逃回り住居は消失し祖母は幸い隣のビルの地下室の水溜まりで辛うじて生存いたしました。

二人姉弟で弟は学童疎開で（小学6年生）食料難の折、宮城県角田の小学校へ疎開中は大変お世話を受けました。急遽入試のため（旧）都立中へ帰宅途中は東京大空襲の煽りで大宮駅付近より上野駅間が不通状態で再会が出来ず、後日連絡を頂き浅草橋駅近く母校の福井小学校で姉弟の再会が出来ましたが、

両親も亡く祖母、弟、私三人家族で住居も無く、何の保障もなく、お役所への勤務も出来ず、都内での日常生活が出来ない状態で。私は姉として弟の育成の事も考え祖母の知人で旧福島県相馬郡磐城中村（現）相馬市中村町大町での疎開生活中は相馬の方々のご厚意は未だ忘れる事は出来ません、相馬での娘時代の思い出には原ノ町軍、飛行場へ勤労奉仕に参加も致しました。また祖母も相馬で病死致し、弟、和彦は（旧）相馬中学校（現在高校に於いても一年間お世話を受け福島県の方々のご厚意は一生忘れる事は出来ません。

福島、相馬の皆様方々にはくれぐれも宜しくお伝え下さい。

東北地方震災被害状況の報道番組で、「幼児」女の子が、「おかあさん、おかあさん」と泣き叫び続ける、おかあさんは、家屋共にも流れていく悲惨な映像を拝見致し津波の恐ろしさ、被害の重大さに痛感致しました。

我が国は地震大国です。人ごとではありません。明日は我が身と、古い言葉で言い伝えがあります。『がんばろう 日本』をテーマとしてクラブ員の方々も頑張っています。

つきましては、86才のおばちゃんの贈り物として些細な作品で失礼とは存じますがDVD盤のご配慮を滋賀県教育委員会にお願い致した次第です。

一日も早い復興と子どもたちの明るい未来をお祈り申し上げます。

年末のご多忙中の折申し訳ございません来年は良いお年であります事をお祈り申し上げます。

近日中にはクラブより被害地の子ども達に楽しみ乍ら学べる作品をお贈りする予定です。